

「浜松市の無形民俗文化財」教材用資料

動画視聴後の内容復習・補足知識として使用できる「三択クイズ」「詳細データ」
授業の補助にお使いください

三択クイズ

【01】西浦の田楽【国指定】

	問 題	選 択 肢	正 解
【 Q1 】	「西浦の田楽(にしうれのでんがく)」はいつから始まったでしょう？	昭和51年(1976年)から 養老3年(719年)から 鎌倉時代ごろから	●
【 Q2 】	「西浦の田楽」の舞は何を表しているでしょう？	スポーツ 料理 農作業	●
【 Q3 】	「西浦の田楽」に使われる楽器は？	ピアノやバイオリン 太鼓や笛 ドラムやギター	●
【 Q4 】	「西浦の田楽」の準備をするのは誰でしょう？	市外のボランティア 地域の人たち プロのイベント会社	●
【 Q5 】	西浦観音堂はどこにあるでしょう？	浜松市天竜区水窪町 浜松市中央区半田山 浜松市浜名区引佐町	●
【 Q6 】	水窪地区はお米が作りにくい土地でした。どのような作物の豊作を願っていたでしょう？	アワやヒエ 小麦 とうもろこし	●
【 Q7 】	田楽の笛の素材は何でしょう？	プラスチック 銅 竹	●
【 Q8 】	「西浦の田楽」はどのように伝えられているでしょう？	全員女性で伝えている 昔のやり方のまま伝えている 海外の踊りを取り入れて伝えている	●
【 Q9 】	「西浦の田楽」は旧暦1月18日に行われます。なぜ旧暦を続けているのでしょうか？	月と太陽の動きを大切にしているから 風を大切にしているから 川の流れを大切にしているから	●
【 Q10 】	「西浦の田楽」が始まったきっかけは何でしょう？	村の子供たちを楽しませるため 行基菩薩が仏像と田楽面を贈ったこと 元正天皇が村に宿泊したのを記念して	●
【 Q11 】	「西浦の田楽」が伝承されている方法は何でしょう？	浜松市役所の職員が毎年行っている 代々の世襲によって守られている インターネットで一般募集されている	●
【 Q12 】	次のお面の中で「西浦の田楽」で使われるものはどれ？	狸面(たぬきめん) 獅子子面(ししめん) 治部(じぶ)の面	●

治部の面▶



「浜松市の無形民俗文化財」教材用資料

ふりがな	にしうれの でん がく	担い手	西浦田楽保存会
名 称	西浦の田楽	文化財指定	国指定 昭和51年(1976年)
場 所	天竜区水窪町奥領家5219 西浦所能観音堂 (にしうれしょのうかんのんどう)	開催日	旧暦 1月18日 (現在の2月～3月)
概 要	月の出から翌日の日の出まで続く神事。五穀豊穡(作物がたくさん育つこと)や無病息災(健康で過ごせること)、子孫長久(家族がずっと続くこと)などを願っておこなわれる。西浦田楽は「お祭り」や「観音様のお祭り」とも呼ばれている。		
起 源	養老3年(719年)に行基(ぎょうき)という僧が訪れ、正観音菩薩の仏像とお面を作ったことから始まったと伝えられている。観音様のほかにもたくさんの神様がまつられており、面の種類も豊富。これらのお面を使って舞うことで、神様たちへの感謝の気持ちや願いを伝えてきた。		
演目・楽器	「田楽舞」と呼ばれる舞が行われる。田楽舞は「地能」と「はね能」の2種類。地能は、神事(神様にお祈りする儀式)として行われる舞で、33の演目がある。中でも「舟渡し(ふなわたし)」という舞は見どころの一つ。この舞は、観音堂から特別な舟が渡され、その火で松明に火をつける。はね能は、面をつけて舞う演目で、観音様への奉納として行われる。お祭りのクライマックスは、「地能」と「はね能」の舞が終わった後に行われる「しずめ」という儀式。この儀式では、神様に元の場所に戻ってもらうお祈りをする。また、「獅子舞」や「火の王」「水の王」という舞も行われ、祭りの最後を締めくくる重要な部分を担う。		
建 物	観音堂は翁川(おきながわ)という川の西側、観音山のふもとに建てられている。観音堂の中には「正観音菩薩」という仏様がまつられていて、田楽で使われるお面も保管されている。現在のお堂は、明治25年(1892年)に建てられた。		
変遷 現在の姿	西浦田楽は、代々「能衆」と呼ばれる家の人たちによって守られている。能衆はこの田楽を毎年同じように行い、その伝統を大切にしている。地域の人々も協力しながら、このお祭りを続けてきた。祭りの準備や松明の用意、消防警護なども、地域全体で行われている。		

●作成年月日／令和6年9月30日現在の情報

